

障がいのある人もない人も共に生きる長野県づくり条例の 啓発・相談支援等の取組状況について（令和5～6年度）

障がい者支援課

1 啓 発

(1) 県民・事業者共通

ア 広報媒体の活用

(ア) 条例周知チラシの配布

- ・ 出前講座、各種イベントでの配布
- ・ 障害者週間（12/3～9）中に街頭での配付（R5）及び県庁1階玄関ロビーに設置した啓発ブースへの配置（R6）

(イ) 県広報ラジオ番組での周知

改正障害者差別解消法について（R6.4）

(ウ) テレビ番組（5分）、CM（15秒）並びに動画（約1分）の制作・放映

- ・ 県内で障がいがある方と共に活動したり働いている団体等の様子を取り上げたテレビ番組を6本制作し、テレビで放映（R6.9～11）
- ・ 共生社会をイメージさせるCMを制作し、テレビや長野駅前大型ビジョンで1か月間放映（R6.11～12）
- ・ 社会的障壁や合理的配慮の提供等についてわかりやすくまとめた動画を制作し、今後の広報に活用予定（R7.3）

イ 研修等

(ア) インクルーシブデザインワークショップの開催

「障がいの社会モデル」の考え方を普及させることを目的に、障がい当事者と共に街を歩き、社会にある障壁を発見して解消するための方法を考えるワークショップを長野、松本で開催（R6.10、11）

項目	結果	備考
参加者数	58人	銀行、小売業、飲食業、大学生等
参加者満足度	93%	R7以降はワークショップの内容を一部変更して実施することを検討中

(イ) 出前講座の実施

項目	5年度	6年度（12月まで）
実施回数	29回	14回
受講者数	1,246人	624人
受講者満足度	96%	92%
主な実施先	市町村、企業、大学、警察学校、美術館、建設会社等	

ウ イベント出展

区分	取組内容
イベント	①24時間テレビ（R5.8） ②商業施設（R6.1） ③商業イベント（R6.10）※R7.2予定あり
出展内容	①②ボッチャ、競技用車いす試乗、ブラインド体験（アイマスクと白杖を使った歩行体験） ③車いす及びけん引式車いす補助装置試乗、やさしい日本語クイズ
来場者数	①約600人、②約160人、③約590人

(2) 事業者

ア 事業者向けリーフレットの配布

合理的配慮の提供に関するリーフレットをホームページにも掲載して内容を周知

イ ともいきカンパニー認定制度の運用 (R4. 10~)

優れた合理的配慮を提供すると宣言した県内事業所を認定

認定区分	ともいきホスピタリティ	ともいきワークプレイス
認定内容	障がい者にやさしいサービスを提供する事業所	障がい者が働きやすい職場環境づくりを行う事業所
認定数 (R6. 12 末)	632 事業所	41 事業所
認定事業所の 主な業種	ホテル業、建設業、保険代理業、製造業、農業生産加工業、飲食業、ライブハウス、体操クラブ、コンビニエンスストア、理美容店等	

2 県組織内部の取組

ア 目標設定

全庁を挙げて障がい者共生づくりを率先垂範するため、全組織共通目標を設定

目 標	目標値	R 5 実績
研修受講率	100%	達成 100%
障がい者 雇用率	法定雇用率以上	達成 知事部局 3.15%、教育委員会 2.56% (法定雇用率 知事部局 2.6%、教委 2.5%)
優先調達金額	前年度実績以上	達成 59,512 千円 (R4 : 59,147 千円)
意思疎通支援	県が発信する情報にアクセスしやすい配慮等 100%	概ね達成 「参加申込書に合理的配慮を申し出る欄を設けた割合」のみ 100%に至らず。

イ 研修の実施

研修区分	e-ラーニング	集合研修
受講内容	R5~6 「合理的配慮と事前的改善措置」のテキストを閲読 (全職員対象)	R5 当事者講師によるグループワーク等を 4 会場で開催 R6 障がいの世界の疑似体験及びグループワークを 4 会場で開催
受講状況	理解度 R5 : 96%、R6 : 集計中	満足度 R5 : 90%、R6 : 96%

3 障がい者差別解消相談窓口における相談対応状況

令和 5 年度相談延べ件数 206 件

(延べ件数の内訳)

単位 : %

相談者	相談内容	対応結果
本人	83.5 不当な差別的取扱い	5.8 調整等の実施 6.8
家族	3.9 合理的配慮の不提供	3.4 専門機関の紹介 13.1
支援者等	1.9 制度説明	6.3 制度説明 5.8
民間事業者	4.4 その他*	84.5 傾聴・助言等 74.3
その他	6.3	

※ 生活上の悩みや不満、話を聞いてほしい等